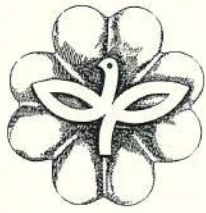


令和3年

長野市民生委員児童委員協議会 第47号



民児協ながの

発行 長野市民生委員児童委員協議会
会長 伊藤篤志
編集 広聴広報委員会

長野市緑町1714-5
長野市社会福祉協議会内
電話 026-225-1234

全市的な活動強化策策定へ 第1回地区会長会開催

長野市民児協の今年度第1回地区会長会（総会）が4月15日、開催されました。会議には、地区会長と専門部会長が出席し、新年度の活動計画や予算案などを審議しました。

立ち、昨年は新型コロナウイルスの発生で、総会も出来ない状況でしたが、今年開催ができて嬉しく思います。

先の見えない状況が続く、委員の活動は制限を受けています。創意工夫を凝らし地域住民に寄り添った活動に取り組みいただき感謝します。

百周年活動強化方策については、37地区の地域版を集約し、今年中に全市的な活動強化策を策定します。また全国的に新たな民生委員の確保が課題です。5月の活動強化週間では、制度や活動を広く周知すること、各地区で取り組みいただきました。



第1回地区会長会（ふれあい福祉センターホール）

いと述べられました。次に、来賓の加藤久雄長野市長からビデオメッセージが寄せられ、台風19号災害やコロナ対応等について、市民児協への感謝の言葉があり、またワクチン接種等感染防止策の推進について説明がありました。

寺田裕明市社会福祉協議会会長は、新たに長野市権利擁護センターを開設し、総合相談から任意後見制度を活用した支援を行う「おひとりさま」安心サポート事業に取り組み等今年度の方針について述べられました。

続いて議案の審議に移り、「2年度事業報告・決算報告」「3年度事業計画・予算案」「広聴広報委員会、各専門部会の活動計画」などについて審議を行い、全ての議案が承認され、新年度の活動がスタートしました。

今年度の主な活動・行事予定としては、地区会長会視察研修、全国民生委員児童委員大会（10月京都市）などが予定されています。

この後、「3年度長野市福祉行政について（保健福祉部・こども未来部）」と「長野市社会福祉協議会の事業計画」について、それぞれ担当者から説明がありました。

3年度事業重点項目

- 1 コロナ禍における「わがまち」に見合った創意工夫を凝らし、人と人をつなぐ活動を模索し推進します。
- 2 高齢者、障がい者、子育て家庭等の孤立・孤独を無くすとともに、適切な支援をつなげるために、行政や地域の福祉団体との協働・連携による取組を推進します。
- 3 子どもたちの「身近なおとな」として、子育てや子どもの健やかな育ちを支える地域づくりを推進します。
- 4 地域における様々な福祉課題を踏まえ、中長期的な視点に基づく取組を着実に実行していくために、全市的な「活動強化方策」を策定いたします。
- 5 民生委員・児童委員が気軽に相談できる環境づくりを推進するとともに、資質向上を目指すため、研修会の開催や促進に努めます。

認知症ケア技法など学ぶ 全体研修会開催

2月26日、長野市民生児童委員協議会全体研修会が、委員766名の参加のもとホクト文化ホールで開催されました。

伊藤篤志会長は主催者挨拶で、新型コロナウイルスの猛威で日々の生活が脅かされ、委員活動も大幅に制約を受けています。様々な生活課題を抱える住民の増加が懸念される状況です。

永きにわたり地域住民の立場に立ち、支援につながる役割を果たしてきましたが、これまで以上にその重要性を増し、期待も高まっています。



寸劇披露わかほキャラバンメイト

て、良い例・悪い例の2つのパターンが示され、温かな目で見守り、不安を取り除くことが大事など、正しい対応方法を学びました。

また講座では、認知症による症状、本人のつらさ、ユマニチュード(見つめること、話しかけること、触れること、立つことなど)による包括的コミュニケーション(ケア技法のこと)の基本や、早期治療の大切さを学ぶことができました。

次いで飯綱町社会福祉協議会作成の紙芝居「大好きなおばあちゃん」が披露されました。紙芝居は

今後も地域の人々の信頼と期待に応えるため「研鑽を重ね、一人一人の役割を確実に果たすため、更に活動の質の向上に一丸となって取り組みましょう。」と強調されました。

この後、講演「認知症理解のための講座と寸劇」においては、わかほキャラバンメイトの皆さんの熱演で寸劇が披露されました。寸劇では認知症の方への対応につ

認知症理解を深めるために作成されたもので、その症状や認知症の方を支える家族と地域の方たちとのつながりの大切さが描かれたものでした。

講義では、包括ケア推進課の高戸谷千志美氏から「こんな時はつないでみませんか 包括支援センターへ」と題し、支援の状況説明があり、充実した研修会となりました。

＝ 私の体験から 事例報告 ＝

地域包括支援センターとの 緊密な連携の確認

安茂里地区民児協

小池 正志

Aさん(91歳・母)、Bさん(59歳・息子、重度身体障害者)の二人暮らしのケースです。

令和2年11月24日早朝に、「Aさんが急死し、Bさんが放心状態で緊急支援が必要」との連絡を隣のYさんから受けました。私は、障害者のBさんが心配なので、「西部保健センター(以下、「保健C」という。)とも連携した緊急対応」を地域包括支援センター(以下、「包括C」という。)にお願いをしました。

翌25日、YさんとBさん宅を緊急訪問、思ったより元気でしたが、家の中はゴミの山で、異臭がし4月から入浴してないとのこと。

26日、再度Bさん宅を訪問して福祉サービスの利用を勧めました。当初はサービスを拒否していましたが、市南部障害者相談支援センター(以下、「障害C」という。)の訪問・説明を受入れて貰うことができました。同時に、障害Cに障害支援区分認定調査の手配をお願いしました。

今年1月28日には、障害CとYさん、そしてBさんの従妹も参加してケア会議が開催され、身辺自

立を目標に家事援助や入浴サービスが開始されることになりました。

急死されたAさんは、令和2年1月に包括Cからの要請を受け見守り対象の方で、民生委員だよりも届けていました。亡くなる約1ヶ月前の10月28日Yさんから「大声で騒ぐ等の異変行動があり対応を」と連絡があり包括Cに対応の依頼をしました。包括Cは近隣の方に様子を確認しながらも、Bさんの「大丈夫だからとの繰り返し」に、長く面談出来ずにいたことも後日判明し、支援が行き届いたのか反省点も残りました。

同年12月の定例会で本ケースについて報告するとともに民児協役員に相談した結果、安茂里地区管内で、類似ケースが複数回あり、緊急のケース会議開催をお願いしました。本庁の担当課長、中部包括C責任者、包括C、保健C、安茂里民児協三役等の出席をいただきました。

その結果、高齢者等が地域で安心して生活できるよう個別のケースについて、「包括Cからは民生委員への経緯の報告、民生委員からは包括Cへの問合せ等相互に積極的に行うこと」「情報を共有すること」等を申し合わせ、一層緊密に連携をしていくことを確認しました。

第一地区民児協の近況

第一地区民児協会長 塩澤 一郎

第一地区民児協は、主任児童委員2名を含め19名(うち男性5名)で活動しています。一昨年の改選では半数以上が新メンバーとなりました。

昨年度は、事業計画により行う予定の視察研修や交流事業のほとんどが中止となりましたが、高齢者や子供の見守りは行いました。当地区の通学区域は、城山・加茂小学校、柳町・西部中学校

であり、委員は登下校時の見守りを行っています。加茂小学校では、「加茂小隊」が組織されており、通学区の委員も参加して、写真のようなベストを着用して見守りをしております。



見守り活動に着用

月一回の定例会では、主に中央消防署の会議室で行い、行政の方からの連絡事項や行政の方との質疑、情報を共有するために、体験した事例などを出し合いました。その中で、一人暮らしの高齢者の孤立防止対策が話し合われ、孤立死に遭遇した事例を挙げ、普段からのあいさつや声掛け、新聞等が

溜まっていけないか、夜、電気がついていないか確認するなどの意見が出されました。また、最近は一人暮らしの高齢者のゴミ出しについて相談されたとの意見も多くあり、一つとして、「地域たすけあい事業の家事援助によりゴミ出しを頼みたいが、時間が合わない」、「ゴミ出しの時間を遅らせてもらいたい」、「ゴミを出す場所が遠すぎる」などの意見が出されました。

三月の定例会では、昨年中止となりました。第一地区から第五地区共同での「活動記録の書き方」の研究を、第一地区

区独自で行いました。四月の定例会及び総会の開催が、感染拡大により危ぶまれましたが、今年度は別の会場を確保して開催することができました。新型コロナウイルスが一日でも早く収束を迎え、すべての事業が通常どおりに開催できることを願っています。

発信・わが民児協

コロナ禍での活動

篠ノ井東部地区会長 深谷 恒

篠ノ井東部地区は川中島平の南端にあり、長野オリンピックの開閉式会場となった野球場・その後建設されたサッカー場で有名な「南長野運動公園」や「川中島古戦場」周辺の東福寺・西寺尾・杵淵地域であります。

我が民児協は主任児童委員2人を含め14人で活動しております。その活動も新型コロナウイルスの感染拡大により予定された各行事の中止や規模縮小が余儀なくされ、当初目指した活動計画が充分に行われない状況にあります。そのような環境下の中昨年度感染症防止に留意しながら「認知症サポート講座」を東福寺・西寺尾両地区で開催しました。対象受講者は区長はじめ健康福祉推進委員・日赤奉仕団・民生児童委員の代表者で行いました。講座内容はボランティアによる寸劇と行政機関による解説と懇談で意見交換をしました。



認知症サポート講座

次の活動として独居高齢者や高齢ご夫婦を対象に「ふれあい会食会」を開催しております。例年は

年11回の開催をしておりますが、昨年途中より新型コロナウイルスの影響により中断となっております。このような状況の中、それに変わる対策として今、何ができるか、何をしなければならぬのか等について担当者を中心に検討しました。その結果、再開できるまでの当面の間、見守り活動の一環として我々側から会員対象者宅へ弁当を持ちながら定期的に出向き、安否確認と交流を図ることになりました。早期に通常の再開が出来る事を待ち望んでおります。

定例会では行政や関係機関と連携できる体制にしたいと思っております。そのためには日頃から抱える問題を気軽に話し合える問題意識を持って、皆で情報を共有し一人で悩まず仲間と一緒に考える雰囲気づくりを心がけております。これからも高齢化社会や近隣住民間のつながりの希薄化の進行に伴い民生児童委員の果たす役割も増してまいります。地域の方々に我々の活動内容を認知してもらおうと共に地域福祉の向上に一丸となつて活動してまいります。

増加する虐待事案に連携を

長野市主任児童委員部会長 石田三千夫

昨年より新型コロナウイルス感染症対策のため、区域を担当する民生委員児童委員さんをはじめ私たち主任児童委員も思うような活動が出来ず、また各地区内小中学校での様々な行事が、中止や外部の参加者を除いた縮小した開催となり、一昨年までは異なった活動を余儀なくされています。

さて子どもの健やかな成長に影響を及ぼす児童虐待に関する問題は、年を追う毎に切実な問題となっています。

令和元年の全国の児童相談所における児童虐待に関する相談対応件数は、十九万三千件（前年の平成30年は十六万九千件）で、前年比21%の増加となっています。

その内容は心理的虐待が十萬九千件と全体の56%を占めています。また通報先は警察から49%を占めています。これは子どもの面前での夫婦間暴力いわゆる「面前DV」が心理的虐待に当たることから、当該暴力事件に関する警察から、通報が行われることによるものです。

長野県における令和元年の虐待対応件数は二千八百件（前年は二千三百件）と前年比18%の増加と毎年右肩上がりの増加件数となっています。

さらに長野市においても統計期間間は国・県と異なりますが、令和2年10月末での家庭児童相談件数の内、虐待に関するものが千三百件（前年八百件）と大幅に増加しています。

特に昨年は新型コロナウイルス感染症対策による全国一斉休校の影響で、児童が家庭に居る時間が長くなり、また保護者の就労及び生活環境が激変し経済的に困窮状態となり、その余波が子どもたちへ向かうのではないかと危惧されています。

少子高齢化が叫ばれている中、未来を託されている子どもたちが理不尽な目に遭うことがあってはならないことと思います。私共主任児童委員は学校をはじめ関係機関と常に連携を図り、早期に情報を掴むよう活動をしています。区域を担当する民生委員児童委員の皆様におかれましては、児童虐待またはその恐れがあるとの情報に接するところがありましたら、長野中央児童相談所または長野市子育て支援課への連絡をお願いいたします。もちろん各地区の主任児童委員でも結構です、お知らせをお願い申し上げます。

活動強化週間・PR活動等の状況

アンケート調査を実施

5月12日は民生委員児童委員の日、この日から1週間は活動強化週間です。この期間に一斉にPR活動等を展開することで、地域の方々に民生委員の存在や活動を知っていただき、委員活動の充実につなげていくことを目指しています。

各地区民児協のPR活動等の取り組みについて、アンケートさせていただきました。コロナ感染拡大防止・予防に留意しつつ、つながりを絶やさぬよう、支援活動に工夫と配慮をされている現状がうかがえました。

新任委員にとり、チラシや広報紙の配布は関係づくりを深める確かな手掛かりの一助になると好評です。

1 街頭活動の状況

① のぼり旗の掲出 34地区

② ティッシュの配布 1地区
(令和元年まで2千個配布。2年度から中断)

③ チラシの配布等 10地区

ア 全戸配布(5月) 6地区
(地区によっては地区委員名、相談・支援機関等掲載)

イ 要支援者訪問時配布等 4地区

④ 登下校見守りやあいさつ運動(新学学期、5月) 11地区
(他の時期に行う地区もあります)

2 広報紙発行・配布等の状況

① 民児協だより(民生委員たり)の発行・配布 18地区

ア 全戸配布(改選時、1月等) 8地区

イ 回覧、対象絞り配布 10地区

② 地区住自協や社協広報紙に活動内容掲載 8地区

3 その他の活動

① 独居高齢者等への一斉訪問(電話対応を含む) 16地区

② 独居高齢者等の安否確認・心配ごと等支援 1地区

③ 心配ごと相談会の開催 2地区

④ 福祉施設、保育園等でのボランティア活動 3地区

⑤ 地区集いの開催、はつらつ体操・サロン事業支援、ふれあい会食会等支援 7地区

⑥ 全委員で地区内全19地区を現地巡回し課題は定例会で検討 1地区

⑦ おたより大作戦、全民児連PRチラシ配布 2地区

民生委員の活動について理解を深めていただき、信頼関係を築いて行くため各地区で様々な取り組みをされています。多様化する地域の課題を受け止め、誰もが安全に安心して暮らせる社会づくりのための活動を、委員同士で支え合い、模索しながら進みたいものです。